

○計画期間：平成25年4月～平成30年3月（5年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成28年度終了時点（平成29年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市は、平成25年4月以降、認定基本計画に基づき、「出会う」「暮らす」「遊ぶ」の3つの方針のもとに各事業を実施しており、福井駅周辺土地地区画整理事業による福井駅西口広場の供用開始（H28年3月）や福井駅西口中央地区都市機能集約事業、福井駅西口中央地区市有施設等整備事業、福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業、福井にぎわい交流拠点整備事業による福井駅西口再開発ビル ハピリンの完成（H28年4月）や福井鉄道軌道・電停等整備事業による福井駅西口広場延伸や低床車両（LRV）への更新（H28年12月）を完了したところである。また、平成30年開催の「福井しあわせ元気」国体・障害者スポーツ大会、平成34年度の北陸新幹線福井開業に向け、市街地再開発事業の話が持ち上がり、優良建築物等整備事業が着手されるなど、民間投資意欲が高まりつつある。

平成28年の公共交通機関乗車数（一日平均）は、17,835人/日となり、基準値の平成23年（16,378人/日）と比べ1,457人/日の増加となった。観光案内所利用者数は67,301人となり、基準値の平成23年（47,138人/年）と比べ20,163人/年の増加となった。人口の社会増減数は西口再開発ビルによる共同住宅の整備に伴い、第2期計画策定以降初めての増加となった。歩行者・自転車通行量（平日・休日の平均）は38,947人/日となり、基準年の平成24年（36,686人/日）と比べ2,261人/日の増加となった。AOSAから西武福井店までのにぎわい軸に位置づけている場所では通行量は大幅に増えているが、それ以外の場所では目立った動きはない。

ハピリンや福井駅西口広場延伸など一連のハード整備事業が完了し、公共交通機関乗車数、観光案内所利用者数は達成可能の見込みであるが、それ以外の2つの目標指標の達成は厳しい状況である。公共交通機関乗車数や歩行者・自転車通行量など着実に増加してきている目標数値もあるが、街全体の賑わいや消費につながっている実感はまだ生まれていない。

本市では目指すべき将来都市像「かえりたくなるまちふくい」の実現を図るため、第6次総合計画を策定し、中心市街地活性化については、「賑わいのある中心市街地をつくる」、「誰もが使いやすい公共交通ネットワークを構築する」を施策の柱に定めている。それに基づき、中心市街地への移動利便性を高めるため、えちぜん鉄道・福井鉄道田原町駅相互乗り入れ、福井駅西口広場延伸、えちぜん鉄道高架化を進めるとともに、にぎわいと交流の場を創出するためハピリン建設を進めてきたところである。今後は市街地再開発事業や優良建築物等整備事業など民間主体のまちづくりを支援し、さらに官民協働で中心市街地活性化を進めていく必要がある。

## 2. 平成 28 年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

平成 25 年度よりスタートした第 2 期の福井市中心市街地活性化基本計画では、「公共交通機関乗車数（一日平均）」「観光案内所利用者数」「人口の社会増減数」「歩行者・自転車通行量（平日・休日の平均）」の 4 つの目標指標を掲げ、まちなかの賑わい創出に向けて事業が展開された。

「公共交通機関乗車数」「観光案内所利用者数」については、目標達成見込みであるが、「人口の社会増減数」「歩行者・自転車通行量」は、目標達成が困難な状況である。

目標達成が困難な状況として、まず「人口の社会増減数」については、共同住宅の整備により住民基本台帳において人口増となったものの転入を上回る転出が続いている。「歩行者・自転車通行量」は、再開発事業の効果で増加していることは間違いない。しかし、通行の流れが変化し、街全体の回遊性が低い状況となったことから、個店の売り上げが増加傾向になっているのかを調査し、中心市街地での経済活動の状況を正しく把握することが必要である。

なお、昨春、福井駅西口再開発ビルや福井駅西口広場延伸など一連のハード整備事業が完了したことから、継続すべき事業を整理し、中心市街地での消費行動が増えるようなソフト事業を中心とした事業を遂行することが求められる。

また、現在、民間による再開発計画が数か所で動き出している。それぞれの計画の実施主体同士のコーディネート機能を含め、中心市街地の活性化を図るための強いリーダーシップの発揮を福井市に求めるとともに、協議会としては、今後も引き続き連携・協力していく所存である。

## II. 目標毎のフォローアップ結果

### 1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
1 出会う人を増やす	公共交通機関乗車数 (一日平均)	16,378 人 ／日 (H23)	17,150 人 ／日 (H29)	17,835 人 ／日 (H28)	①	①
	観光案内所利用者数	47,138 人 ／年 (H23)	54,000 人 ／年 (H29)	67,301 人 ／年 (H28)	①	①
2 暮らす人を増やす	人口の社会増減数	131 人増 (H20～ H24)	322 人増 (H25～ H29)	7 人増 (H28)	②	②
3 遊ぶ人を増やす	歩行者・自転車通行量 (平日・休日の平均)	36,686 人 ／日 (H24)	48,500 人 ／日 (H29)	38,947 人 ／日 (H28)	②	②

#### <取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

### 2. 目標達成見通しの理由

#### (1) 公共交通機関乗車数（一日平均）について

公共交通機関乗車数は 17,835 人/日となり、基準年である平成 23 年度（16,378 人/日）と比較すると 1,457 人/日 増加した。

中心市街地では、福井駅西口広場の整備により、鉄道・バスの交通結節が強化（福井駅西口広場へのバス乗降所の移設、福井駅西口広場延伸）された。これに加えて、JR 福井駅西口再開発ビル ハピリン のオープン（平成 28 年 4 月）も相俟って、公共交通利用者の底上げにつながり、乗車数が増加した。

また、一昨年度より続く北陸新幹線金沢開業効果や、平成 28 年 3 月にえちぜん鉄道と福井鉄道との相互乗り入れが開始されたことも乗車数が増加した一因であると考えられる。

JR、えちぜん鉄道、福井鉄道、京福バスが増加傾向にあるなか、すまいるバスは一部ルートダイヤ改正による便数の減少や鉄道、路線バス等への交通手段の変更により減少傾向となっている。

平成 28 年度の実績（17,835 人/日）においては、目標値の 17,150 人/日を上回る結果となっていることから、目標達成は可能であると見込まれる。

#### (2) 観光案内所利用者数について

観光案内所利用者数は 67,301 人/年となり、基準年である平成 23 年度（47,138 人/年）と

比較すると 20,163 人/年 増加した。

ハピリンオープンにより来街者が増加したことや、中心市街地における交通結節機能の強化により利便性が向上されたことが要因となり、観光案内所の利用者数が増加したと考えられる。

さらに、観光案内所が JR 福井駅構内からハピリン横に移転整備されたことは、一定の効果があつたとみられる。

また、新たな機能として、交通切符の販売、宿泊施設への手荷物配送、観光ガイドが配置されるなど質の高いサービスが提供されたことも利用者の増加につながっていると考えられる。

平成 28 年度の実績 (67,301 人/年) においては、目標値の 54,000 人/年を上回る結果となっていることから、目標達成は可能であると見込まれる。

### (3) 人口の社会増減数について

人口の社会増減数は 110 人増となり、平成 25 年度から平成 28 年度までの累計で 7 人の増加となった。

平成 25 年度以降、社会減が続いていたが、ハピリンにおける分譲マンションの整備により、第 2 期基本計画認定後初めて社会増に転じた。

目標達成には、さらに 315 人の増加が必要であるが、本計画期間内で整備が完了する共同住宅は無く、大幅な社会増は見込めないため、目標達成は困難であると見込まれる。

### (4) 歩行者・自転車通行量 (平日・休日の平均) について

歩行者・自転車通行量は 38,947 人/日となり、基準年である平成 24 年度 (36,686 人/日) と比較すると 2,261 人/日 増加した。

近年、通行量は減少傾向にあつたが、ハピリンオープンや、中心市街地における交通結節機能の強化により利便性が向上されたことが要因となり、増加に転じた。

特に休日は、7 月は 46,996 人 (前年 29,430 人)、10 月は 45,448 人 (前年 36,366 人) と通行量が大幅に増えた。これらはハピリン前通路において顕著に現れていることから、週末にハピテラスやハピリンホールで開催されるイベントは一定の集客効果があると考えられる。

また、ハピリンオープンに向け、中心市街地の空き店舗を利用した新規出店が増えたことや歩行者専用道路が整備 (南通りからガレリア元町通りに抜ける道を開通) されたことは、通行量の増加につながっているとみられる。

しかしながら、目標達成には平成 28 年度の実績 (38,947 人/日) よりもさらに約 10,000 人/日の増加が必要であることから、目標達成は困難であると見込まれる。

## 3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

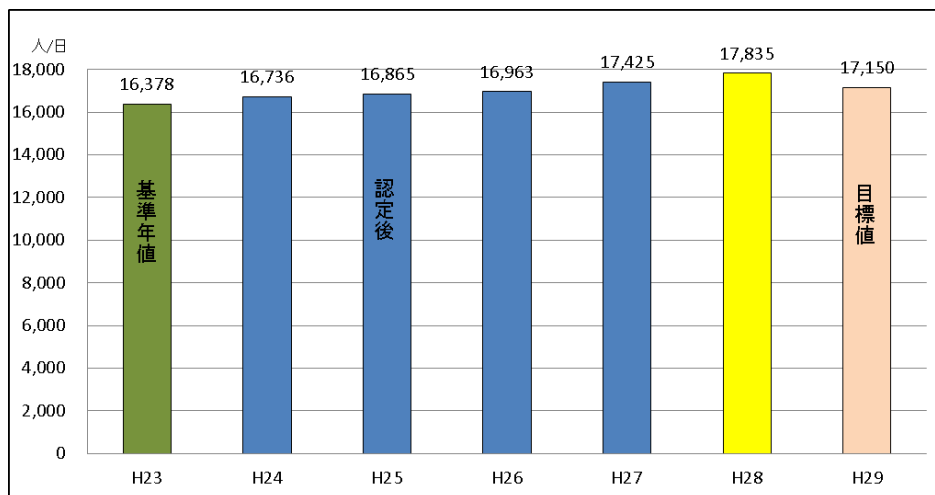
前回のフォローアップと見通しは変わっていない。

#### 4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「公共交通機関乗車数（一日平均）」

※目標設定の考え方基本計画 P78～P84 参照

##### ●調査結果の推移



年	(人/日)
H23	16,378 (基準年値)
H24	16,736
H25	16,865
H26	16,963
H27	17,425
H28	17,835
H29	17,150 (目標値)

※調査方法：乗車数の集計

※調査月：毎年4～3月

※調査主体：各事業者

※調査対象：中心市街地を発着点とする主要な公共交通機関（JR、えちぜん鉄道、福井鉄道、京福バス、すまいるバス）の中心市街地エリアにある全ての停留所及び駅での乗車数

##### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

###### ①. 福井駅西口中央地区都市機能集約事業（福井市）

事業完了時期	平成27年度【済】
事業概要	西口再開発ビルにおけるプラネタリウム(ドームシアター)や展示スペースの整備を行う。
事業効果及び進捗状況	認定時の事業効果：34人/日 平成28年3月に整備が完了し、平成28年4月28日にオープンした。入込み人数から推計した公共交通機関乗車数は、72人/日となり、認定時に想定した事業効果に比べて38人/日の増加となるなど、公共交通機関乗車数の増加に寄与している。

###### ②. 福井駅西口中央地区市有施設等整備事業（福井市）

事業完了時期	平成27年度【済】
事業概要	西口再開発ビルにおける総合ボランティアセンター、観光関連施設、屋根付き広場などの整備を行う。
事業効果及び進捗状況	認定時の事業効果：249人/日 平成28年3月に整備が完了し、平成28年4月28日にオープンした。入込み人数から推計した公共交通機関乗車数は、203人/日となり、認定時

に想定した事業効果に比べて 46 人/日の減少とはなったが、公共交通機関乗車数の増加に寄与している。

③. 福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業（福井駅西口中央地区市街地再開発組合）

事業完了時期	平成 27 年度【済】
事業概要	西口再開発ビルにおける商業・業務施設、住宅、公共公益施設、駐車場などの整備を行う。
事業効果及び進捗状況	<p>認定時の事業効果：202 人/日</p> <p>平成 28 年 3 月に整備が完了し、平成 28 年 4 月 28 日にオープンした。入込み人数から推計した公共交通機関乗車数は、<u>1,168 人/日</u>となり、認定時に想定した事業効果に比べて 966 人/日の増加となるなど、公共交通機関乗車数の増加に寄与している。</p>

④. （仮称）福井にぎわい交流拠点整備事業（福井駅西口中央地区暮らし・にぎわい再生事業）（福井市）

事業完了時期	平成 27 年度【済】
事業概要	西口再開発ビルにおける多目的ホールなどの整備を行う。
事業効果及び進捗状況	<p>認定時の事業効果：34 人/日</p> <p>平成 28 年 3 月に整備が完了し、平成 28 年 4 月 28 日にオープンした。入込み人数から推計した公共交通機関乗車数は、<u>19 人/日</u>となり、認定時に想定した事業効果に比べて 15 人/日の減少とはなったが、公共交通機関乗車数の増加に寄与している。</p>

⑤. J R 福井駅南側自転車駐輪場整備事業（福井市）

事業完了時期	平成 27 年度【未】
事業概要	J R 福井駅の南側に自転車駐輪場を整備する。
事業効果及び進捗状況	<p>認定時の事業効果：10 人/日</p> <p>平成 28 年 3 月に整備が完了し、平成 28 年 4 月 28 日にオープンした。整備台数から推計した公共交通機関乗車数は、<u>0 人/日</u>となり、認定時に想定した事業効果は得られなかった。</p>

⑥. 中心市街地チャレンジ開業支援事業（まちづくり福井株）

事業完了時期	平成 29 年度【実施中】
事業概要	空き店舗への出店者に対しての家賃や開業経費を補助する。
事業効果及び進捗状況	<p>認定時の事業効果：5 人/日</p> <p>中心市街地チャレンジ開業支援事業により、新規出店補助を 61 件（H25：9 件、H26：18 件、H27：30 件、H28：4 件）行った。新規出店件数から推計した公共交通機関乗車数は、<u>4 人/日</u>となり、認定時に想定した事業効果に比べて 1 人/日の減少となった。</p>

⑦. 福井駅周辺土地区画整理事業（福井市）

事業完了時期	平成 30 年度【実施中】
事業概要	東口都心環状線・福井駅北通り線・北の庄線など道路整備と西口広場、東口広場、自由通路などの整備を行う。
事業効果及び進捗状況	<u>認定時の事業効果：150 人/日</u> 福井駅西口広場のバス乗降場の整備が完了し、平成 28 年 3 月 27 日より供用を開始した。中心市街地内のバス乗車数は、 <u>2,746 人/日</u> となり、認定時に想定した事業効果に比べて 249 人/日の増加となるなど、公共交通機関乗車数の増加に寄与している。

⑧. 福井鉄道軌道・電停等整備事業（福井鉄道(株)、福井市、福井県）

事業完了時期	平成 25 年度～【実施中】
事業概要	駅前線の J R 福井駅延伸、市内停留所の改修、田原町駅の改修を行う。
事業効果及び進捗状況	<u>認定時の事業効果：101 人/日</u> 福井鉄道駅前線の J R 福井駅延伸が完了し、平成 28 年 3 月 27 日より供用を開始した。福井鉄道福井駅前駅の乗車数は、 <u>463 人/日</u> となり、認定時に想定した事業効果に比べて 200 人/日の減少とはなったが、公共交通機関乗車数の増加に寄与している。

⑨. 低床車両（LRV）への更新（福井鉄道(株)、福井県）

事業完了時期	平成 28 年度【済】
事業概要	交通バリアフリー法に基づいた低床車両（LRV）を導入する。
事業効果及び進捗状況	<u>認定時の事業効果：34 人/日</u> 平成 26 年度～平成 28 年度に低床車両を 4 編成導入し、運行を開始した。えちぜん鉄道および福井鉄道の中心市街地内駅の乗車数は、 <u>4,356 人/日</u> となり、認定時に想定した事業効果に比べて 512 人/日の増加となるなど、公共交通機関乗車数の増加に寄与している。

●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗しており、引き続き、交通事業者と連携した取組みを行うことで、目標達成は可能であると見込んでいる。

○交通事業者取組み事業

えちぜん鉄道、福井鉄道、京福バス、すまいるバスの指定乗車券を提示した利用者のみ、提携店舗において各種特典が得られる「ノリトク」を実施する。

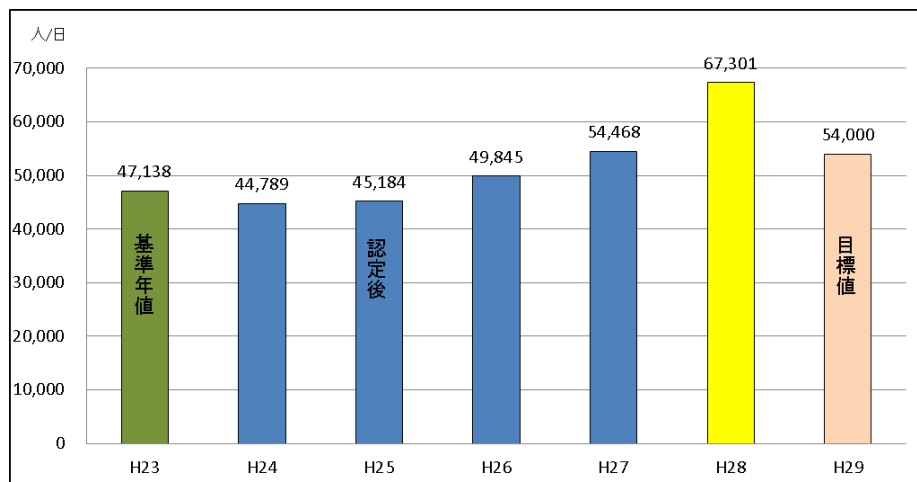
○電停の改良

福井鉄道市役所前電停を改良し、乗り継ぎ、乗降時の安全性と利便性を向上させ、相互乗り入れの効果を促進する。

## 「観光案内所利用者数」

※目標設定の考え方基本計画 P85 参照

### ●調査結果の推移



年	(人/年)
H23	47,138 (基準年値)
H24	44,789
H25	45,184
H26	49,845
H27	54,468
H28	67,301
H29	54,000 (目標値)

※調査方法：観光案内所窓口で利用者数をカウント

※調査月：毎年4～3月

※調査主体：福井市

※調査対象：JR福井駅構内の観光案内所における利用者

### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

#### ① 福井駅西口中央地区市有施設等整備事業（福井市）

事業完了時期	平成27年度【済】
事業概要	福井駅構内に設置されている観光案内所を西口再開発ビルに移転整備する
事業効果及び進捗状況	認定時の事業効果：22,626人/年 平成28年3月に整備が完了し、平成28年4月28日にオープンした結果、観光案内所の利用者数は、 <u>67,301人/年</u> となり、認定時に想定した事業効果に比べて2,463人/年の減少とはなったが、事業効果は表れている。

### ●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗しており、引き続き、きめ細かな案内サービスを提供していくことで、目標達成は可能であると見込んでいる。

#### ○観光案内所の機能強化

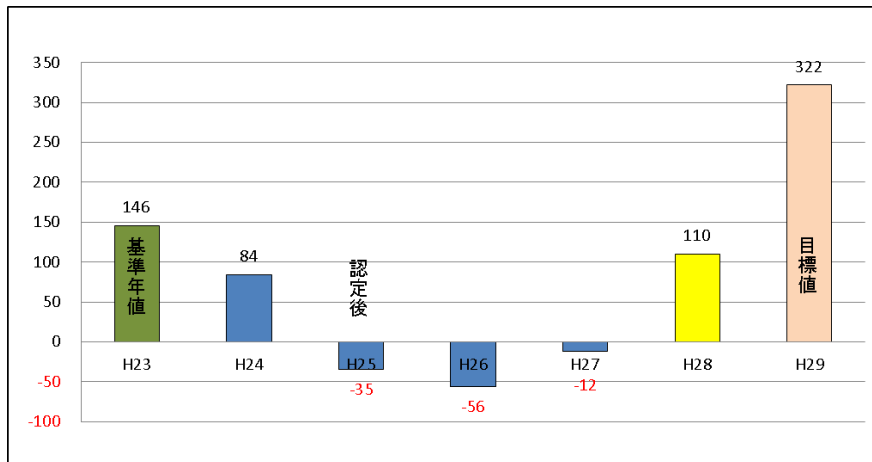
- ・観光ガイドを育成するため、講習会や研修会を開催する。
- ・市内11施設を対象とした共通観覧券「ふくミュ〜パス」の販売を観光案内所で行うとともに、観光客にまちなか観光周遊バスの利用を勧め施設や観光地の誘客を図る。



## 「人口の社会増減数」

※目標設定の考え方基本計画 P86 参照

### ●調査結果の推移



年	(人)
H20 ~ H24	131 (現状数値)
H25	-35
H26	-56
H27	-12
H28	110
H29	
H25 ~ H29	7 (実績値)
H25 ~ H29	322 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳（10月1日現在）より集計

※調査月：毎年10月

※調査主体：福井市

※調査対象：中心市街地の年間社会増減数

### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

#### ①. 福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業（福井駅西口中央地区市街地再開発組合）

事業完了時期	平成27年度【済】
事業概要	商業・業務施設、住宅、公共公益施設、駐車場などを整備する。
事業効果及び進捗状況	平成28年3月に整備が完了し、88戸の住宅が供給されたことで、中心市街地における人口の社会増に寄与したと考えている。

#### ②. 地域優良賃貸住宅整備事業（福井市）

事業完了時期	平成29年度【実施中】
事業概要	まちなかへの居住を促進するため、地域優良賃貸住宅の整備補助を行う。
事業効果及び進捗状況	認定時の事業効果：38人 平成25年度～28年度の4年間では、中心市街地内での実績なし。

#### ③. 共同住宅リフォーム補助（福井市）

事業完了時期	平成29年度【実施中】
事業概要	まちなかへの居住を促進するため、共同住宅のリフォーム補助を行う。
事業効果及び進捗状況	認定時の事業効果：57人 平成25年度～28年度の4年間で、リフォーム補助を6戸行った。

	事業効果：住宅戸数 6 戸×2.28 人/戸（※） = <u>13 人</u> ※：中心市街地内の世帯あたり人員（平成 24 年）
--	--

④. 戸建て住宅リフォーム補助（福井市）

事業完了時期	平成 29 年度【実施中】
事業概要	まちなかへの居住を促進するため、戸建て住宅のリフォーム補助を行う。
事業効果及び進捗状況	認定時の事業効果：13 人 平成 25 年度～27 年度の 4 年間で、リフォーム補助を 3 戸行った。 事業効果：住宅戸数 3 戸×2.28 人/戸（※） = <u>6 人</u> ※：中心市街地内の世帯あたり人員（平成 24 年）

⑤. 二世帯型戸建て住宅建設等補助（福井市）

事業完了時期	平成 29 年度【実施中】
事業概要	まちなかへの居住を促進するため、二世帯型住宅のリフォーム補助を行う。
事業効果及び進捗状況	認定時の事業効果：15 人 平成 25 年度～28 年度の 4 年間で、リフォーム補助を 7 戸行った。 事業効果：住宅戸数 7 戸×2.28 人/戸（※） = <u>15 人</u> ※：中心市街地内の世帯あたり人員（平成 24 年）

⑥. 共同建て住宅建設補助（福井市）

事業完了時期	平成 29 年度【実施中】
事業概要	まちなかへの居住を促進するため、共同建て住宅の建設補助を行う。
事業効果及び進捗状況	認定時の事業効果：11 人 平成 25 年度～28 年度の 4 年間で、実績なし。

⑦. 職住近接住宅リフォーム補助（福井市）

事業完了時期	平成 29 年度【実施中】
事業概要	まちなかへの居住を促進するため、職住近接住宅のリフォーム補助を行う。
事業効果及び進捗状況	認定時の事業効果：23 人 平成 25 年度～28 年度の 4 年間で、リフォーム補助を 1 戸行った。 事業効果：住宅戸数 1 戸×2.28 人/戸（※） = <u>2 人</u> ※：中心市街地内の世帯あたり人員（平成 24 年）

⑧. 小規模集合住宅建設補助（福井市）

事業完了時期	平成 29 年度【実施中】
事業概要	まちなかへの居住を促進するため、小規模集合住宅の建設補助を行う。
事業効果及び進捗状況	認定時の事業効果：23 人 平成 25 年度～28 年度の 4 年間で、補助を 1 戸行った。 事業効果：住宅戸数 1 戸×2.28 人/戸（※） = <u>2 人</u>

### ⑨. マイホーム借上制度（福井市）

事業完了時期	平成 29 年度【実施中】
事業概要	まちなかへの居住を促進するため、マイホーム借上制度を行なうことにより、住替を推進する。
事業効果及び進捗状況	認定時の事業効果：9人 平成 25 年度～28年度の4年間で、実績なし。

#### ●目標達成の見通し及び今後の対策

人口の社会増減数は、平成 25 年以降、社会減が続いていたが、ハピリンにおける分譲マンションの整備により、第 2 期基本計画認定後初めて社会増に転じた。

主要事業は概ね順調に進捗しているが、目標達成には、さらに 315 人の増加が必要である。本計画期間内で整備が完了する共同住宅が無く、このままでは目標達成が困難であるため、今後は都心居住を誘導するための民間再開発の支援や既存事業の取組強化により居住環境を整備し、目標達成に向け一層努力していく。

##### ○市街地総合再生計画の策定および民間再開発の支援

- ・具体的な整備の方針や手法を示した「福井駅・城址周辺地区市街地総合再生計画」を策定（平成 30 年 1 月）する。
- ・また、当該計画に沿って行われる土地の利用化、高度化等に寄与する民間主体の再開発を支援する。

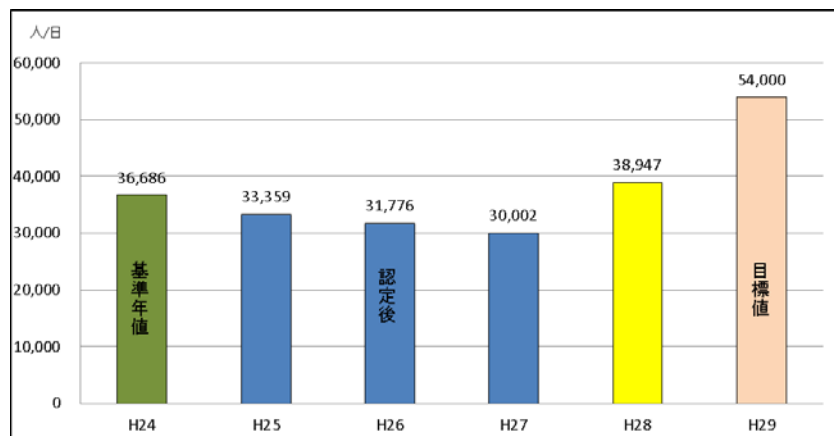
##### ○既存事業の利用促進

- ・「まちなか住まい支援事業」を推進する。特に U・I ターン世帯の居住促進に力を入れるため、福井市東京事務所やハローワーク福井、福井 U ターンセンターなどにパンフレットを配布し、広く事業を周知する。
- ・空き家リフォーム支援事業、空き家取得支援事業については今年度より、まちなか地区の物件に対して従来の補助金に一定額を加算し、都心居住の促進を強化する。

## 「歩行者・自転車通行量（平日・休日の平均）」

※目標設定の考え方基本計画 P87～P91 参照

### ●調査結果の推移



年	(人/日)
H24	36,686 (基準値)
H25	33,359
H26	31,776
H27	30,002
H28	38,947
H29	48,500 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車通行者、毎年7月・10月（平日・休日）に  
10地点において9～20時で計測

※調査月：毎年7・10月

※調査主体：福井市

※調査対象：中心市街地内の10地点（シンボルロード南側、ミスタードーナツ前通り、駅前電車通り北側及び南側、駅前電車通りハニー前、みなみ通り旧生活創庫前、ギャラリー元町、アップルロード西武横、北の庄通り、駅前アーケード）における歩行者及び自転車の通行量

### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

#### ①. 福井駅西口中央地区都市機能集約事業（福井市）

事業完了時期	平成27年度【済】
事業概要	西口再開発ビルにおけるプラネタリウム(ドームシアター)や展示スペースの整備を行う。
事業効果及び進捗状況	認定時の事業効果：441人/日 平成28年3月に整備が完了し、平成28年4月28日にオープンした。 入込み人数から推計した歩行者・自転車通行量は、 <u>939人/日</u> となり、認定時に想定した事業効果に比べて498人/日の増加となるなど、歩行者・自転車通行量の増加に寄与している。

#### ②. 福井駅西口中央地区市有施設等整備事業（福井市）

事業完了時期	平成27年度【済】
事業概要	西口再開発ビルにおける総合ボランティアセンター、観光関連施設、屋根付き広場などの整備を行う。
事業効果及び進捗状況	認定時の事業効果：3,214人/日 平成28年3月に整備が完了し、平成28年4月28日にオープンした。 入込み人数から推計した歩行者・自転車通行量は、 <u>2,625人/日</u> となり、認

	定時に想定した事業効果に比べて 589 人/日の減少とはなかったが、歩行者・自転車通行量の増加に寄与している。
--	---

③. 福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業（福井駅西口中央地区市街地再開発組合）

事業完了時期	平成 27 年度【済】
事業概要	西口再開発ビルにおける商業・業務施設、住宅、公共公益施設、駐車場などの整備を行う。
事業効果及び進捗状況	認定時の事業効果：1,948 人/日 平成 28 年 3 月に整備が完了し、平成 28 年 4 月 28 日にオープンした。入込み人数から推計した歩行者・自転車通行量は、 <u>13,573 人/日</u> となり、認定時に想定した事業効果に比べて 11,625 人/日の増加となるなど、歩行者・自転車通行量の増加に大きく寄与している。

④. （仮称）福井にぎわい交流拠点整備事業（福井駅西口中央地区暮らし・にぎわい再生事業）（福井市）

事業完了時期	平成 27 年度【済】
事業概要	西口再開発ビルにおける多目的ホールなどの整備を行う。
事業効果及び進捗状況	認定時の事業効果：441 人/日 平成 28 年 3 月に整備が完了し、平成 28 年 4 月 28 日にオープンした。入込み人数から推計した歩行者・自転車通行量は、 <u>250 人/日</u> となり、認定時に想定した事業効果に比べて 191 人/日の減少とはなかったが、歩行者・自転車通行量の増加に寄与している。

⑤. JR 福井駅南側自転車駐輪場整備事業（福井市）

事業完了時期	平成 27 年度【未】
事業概要	JR 福井駅の南側に自転車駐輪場を整備する。
事業効果及び進捗状況	認定時の事業効果：1,804 人/日 平成 28 年 3 月に 150 台の整備が完了し、平成 28 年 4 月 28 日に供用を開始した。 整備台数から推計した歩行者・自転車通行量は、 <u>0 人/日</u> となり、予定した整備台数に至らなかったことから、認定時に想定した事業効果は得られなかった。しかしながら、新たなにぎわい交流拠点である再開発ビルハピリン内に設置した相乗効果により、利用率が高まり、歩行者・自転車通行量の増加に寄与しているといえる。

⑥. 中心市街地チャレンジ開業支援事業（まちづくり福井株）

事業完了時期	平成 29 年度【実施中】
事業概要	空き店舗への出店者に対しての家賃や開業経費を補助する。
事業効果及び進捗状況	認定時の事業効果：630 人/日

進捗状況	中心市街地チャレンジ開業支援事業により、新規出店補助を61件（H25：9件、H26：18件、H27：30件、H28：4件）行った。 事業効果：61件/3年（※1）×50%（※2）×10人/店（※3） ×2.1（※4）=640人
------	---

⑦. 居住者増分（福井駅西口中央地区市街地再開発組合、福井市）

事業完了時期	平成29年度【実施中】
事業概要	商業・業務施設、住宅、公共公益施設、駐車場などを整備する。 まちなかへの居住を促進するため、戸建て住宅のリフォームや二世帯型戸建て住宅の建設などに補助を行う。
事業効果及び進捗状況	認定時の事業効果：1,383人/日 目標2の事業効果分として居住者239人増加。 事業効果：239人（※1）×1.003（※2）×3.5（※3）=839人/日

⑧. 福井駅周辺土地区画整理事業（福井市）

事業完了時期	平成30年度【実施中】
事業概要	東口都心環状線・福井駅北通り線・北の庄線など道路整備と西口広場、東口広場、自由通路などの整備を行う。
事業効果及び進捗状況	認定時の事業効果：645人/日 福井駅西口広場のバス乗降場の整備が完了、平成28年3月27日より供用を開始した。 目標1の事業7の効果分として399人/日 399×4.3=1,715人/日

⑨. 福井鉄道軌道・電停等整備事業（福井鉄道株、福井市、福井県）

事業完了時期	平成25年度～【実施中】
事業概要	駅前線のJR福井駅延伸、市内停留所の改修、田原町駅の改修を行う。
事業効果及び進捗状況	認定時の事業効果：434人/日 福井鉄道駅前線のJR福井駅延伸が完了、平成28年3月27日より供用を開始した。 目標1の事業8の効果分として-99人/日 -99×4.3=-425人/日

⑩. 低床車両（LRV）への更新（福井鉄道株、福井県）

事業完了時期	平成28年度【済】
事業概要	交通バリアフリー法に基づいた低床車両（LRV）を導入する。
事業効果及び進捗状況	認定時の事業効果：146人/日 平成26年度～平成28年度に低床車両を4編成導入し、運行を開始した。 事業効果：546人（※1）×4.3（※2）=2,347人/日

	※1：LRV 導入により増加した利用者数 ※2：平成 21 年度に実施した福井駅周辺動態調査によると、公共交通機関を利用した来街者 59 人は調査地点を 251 回通過しており、平均 4.3 回カウントされている。
--	--

⑪. その他の商業活性化などの取組による効果（福井市、福井駅西口中央地区市街地再開発組合、まちづくり福井(株)、京福バス(株)、福井鉄道(株)、福井県）

事業完了時期	平成 29 年度【実施中】
事業概要	歩行者・自転車通行量増加に向けた、上記①～⑩の事業
事業効果及び進捗状況	認定時の事業効果：1,109 人/日 事業効果：22,503 人（※1）×10%（※2）＝ <u>2,250 人</u> ※1：歩行者・自転車通行量増加に向けた事業合計 各事業効果：①939 人、②2,625 人、③13,573 人、④250 人、 ⑤0 人、⑥640 人、⑦839 人、⑧1,715 人、⑨425 人、⑩2,347 人 合計 22,503 人 ※2：イベント開催の促進、ハードを含めた景観整備、響きのホールや A O S S A の利用促進など商業活性化などの取組を実施し、にぎわい軸を中心に魅力の向上を図ることにより、相乗効果として目標 3 の増加分の 10% 増を見込む。

●目標達成の見通し及び今後の対策

歩行者・自転車通行量は近年、減少傾向にあったが、ハピリンオープンや中心市街地における交通結節機能の強化により利便性が向上されたことが要因となり、増加に転じた。

また、週末にハピテラスやハピリンホールで開催されるイベントは一定の集客効果があると考えられる。さらに、ハピリンオープンに向け、中心市街地の空き店舗を利用した新規出店が増えたことや歩行者専用道路が整備（南通りからガレリア元町通りに抜ける道を開通）されたことは、通行量の増加につながっているとみられる。

主要事業は概ね順調に進捗しているが、目標達成には、平成 28 年度の実績よりもさらに約 10,000 人/日の増加が必要である。このままでは目標達成が困難であるため、今後は、新しい取組みとして回遊性向上に向けた事業を展開していくとともに、引き続きハピリンを拠点とした賑わいの創出や商店街等と連携したイベントを開催していくことで通行量の増加に努めていく。さらに、中心市街地のリノベーションの動きを促進するため、出店、開業を支援し、新たな賑わい創出を図るなど、目標達成に向け一層努力していく。

○ハピリンを中心とした賑わいと交流の促進

ハピリンにおいて、プロジェクトマップングなどの集客力の高いイベントを実施する。また、イベント開催にあわせ、各施設や商店街と連携した販売促進を行うことで中心市街地全体に賑わいを波及させる。

○セーレンプラネットの利用促進

自然史博物館やJAXAと連携し、小中学生を対象とした宇宙教育の実施、天体観望会、ドームシアターにおける星空解説を行うことで施設への関心を高める。

○賑わいイベントの推進

駅前電車通りをメイン会場としたまちフェスの開催や、市民が主体となって行うイベントを支援し恒常的な賑わいを創出する。

○まちなか回遊の向上に向けた取組み

ハピリンで開催されるイベントやまちフェスにあわせ、万歩計やスマートフォンを活用したウォークラリー等を実施し、まちなかの回遊を促す。

○食の魅力向上と情報発信の強化

「地酒と魚」が1,000円で飲食できる店舗を掲載したマップを配布し、食の魅力を発信する。※実施期間 4/25～7/25

○リノベーションまちづくりの促進

リノベーションまちづくりのノウハウを伝えるため、リノベーションスクールを開催する。また、中心市街地の商業機能の強化に向け、リノベーション物件への出店や開業を支援する。